



Oracleアダプタのご紹介

目次

■ Oracle アダプタ

- Oracle アダプタとは
- 連携イメージ
- 利用イメージ
- アダプタ機能一覧
 - ・ テーブル読み取り処理
 - ・ 検索系SQL実行処理
 - ・ テーブル書き込み処理
 - ・ 更新系SQL実行処理
 - ・ ストアドプロシージャ実行処理
 - ・ ロードによる書き込み処理
- データベースアダプタ共通機能

Oracleアダプタ

Oracleアダプタとは

■ Oracleデータベースと業務システムを連携

データベース・ソフト Oracle Databaseと業務システムのデータ連携を実現するアダプタです。

● ポイント

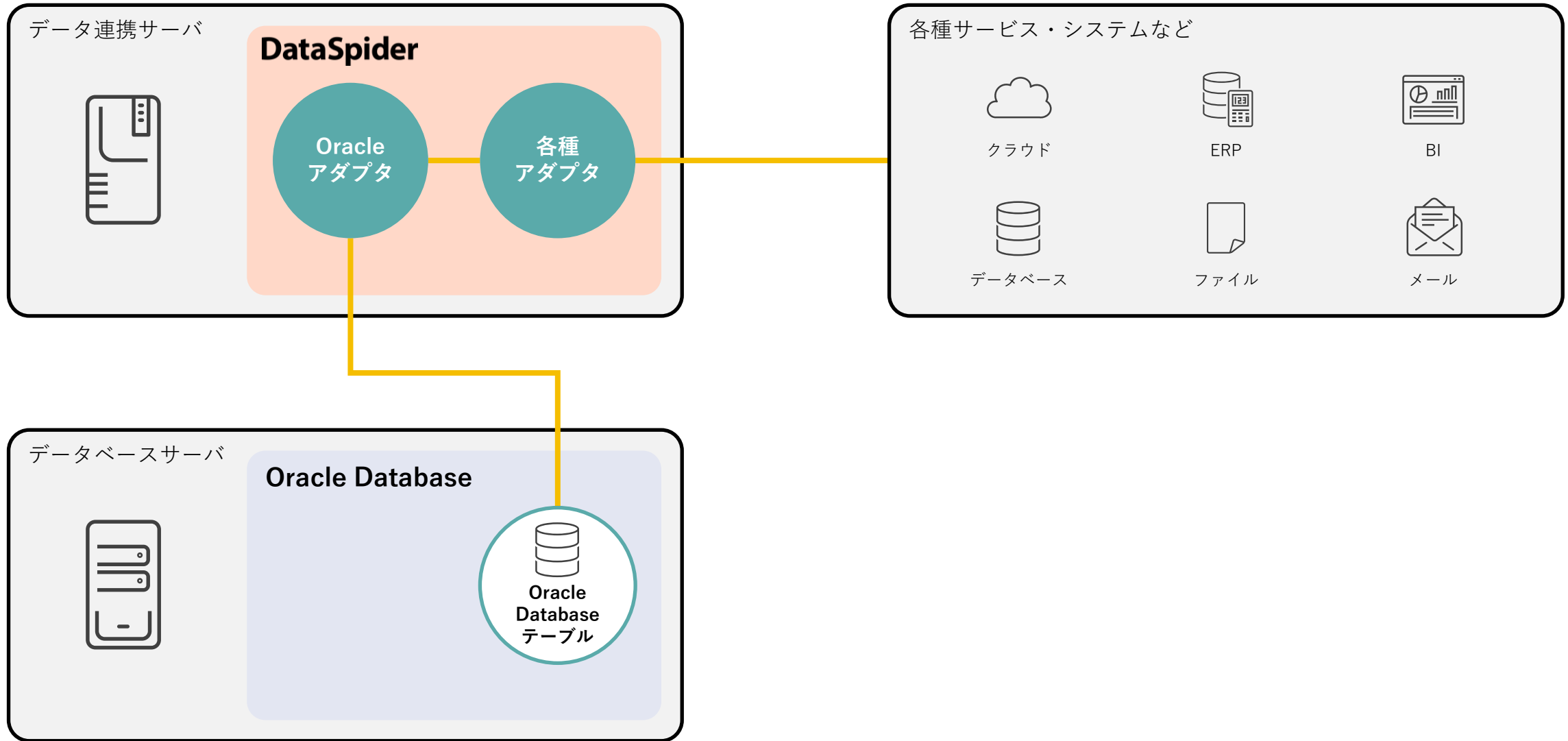
DataSpiderなら、Oracleアダプタを利用して、Oracle Databaseからデータの読み取り・書き込み、条件による抽出などの各種操作が可能です。

- SQLウィザードを利用することにより、GUI操作のみで更新、検索対象や条件の指定等、詳細な設定が可能

※制限事項

- Amazon RDS DBインスタンスへの接続はサポートしていません。
Amazon RDS DBインスタンスへ接続する場合は、Amazon RDS for Oracleアダプタを使用してください。

連携イメージ

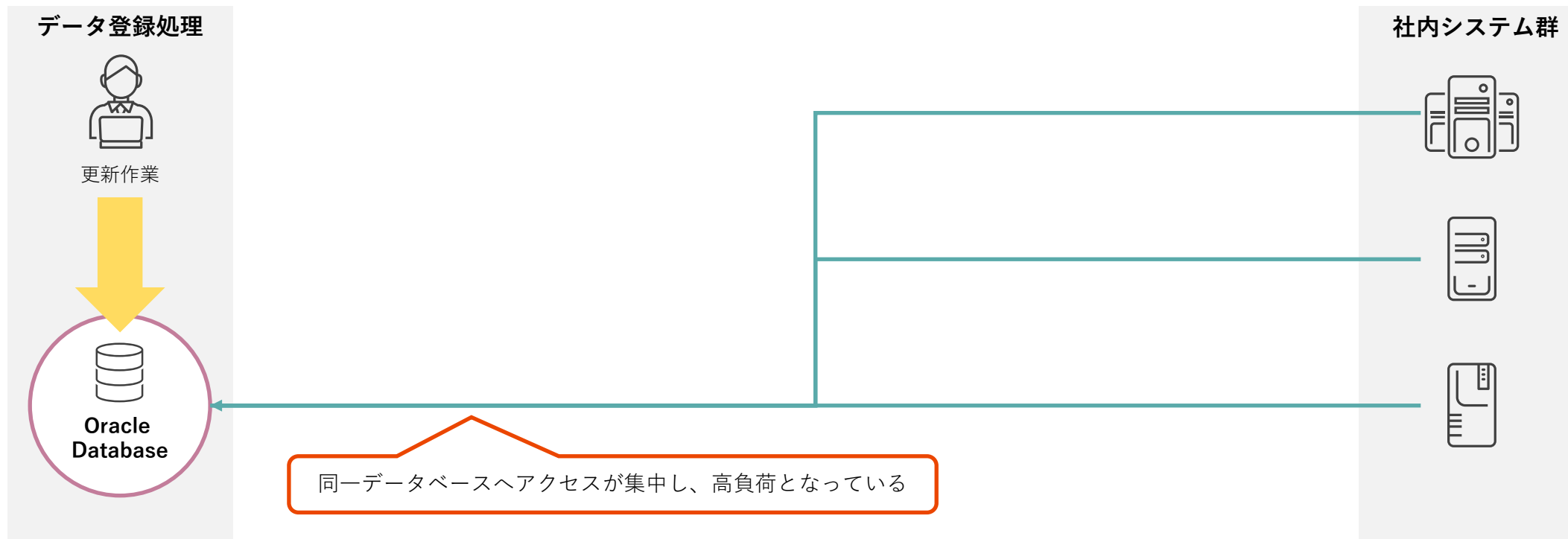


利用イメージ（課題）



従来の運用は極力変更せずに、新たなデータベースと定期的に同期させたい。

日々の業務でOracle Databaseを更新しているが、他のシステムからの閲覧にも同一のデータベースを使用しており、運用時のシステム負荷が高い。既存の運用にはなるべく手をかけずに負荷分散のため新たに閲覧専用のデータベースを導入したい。

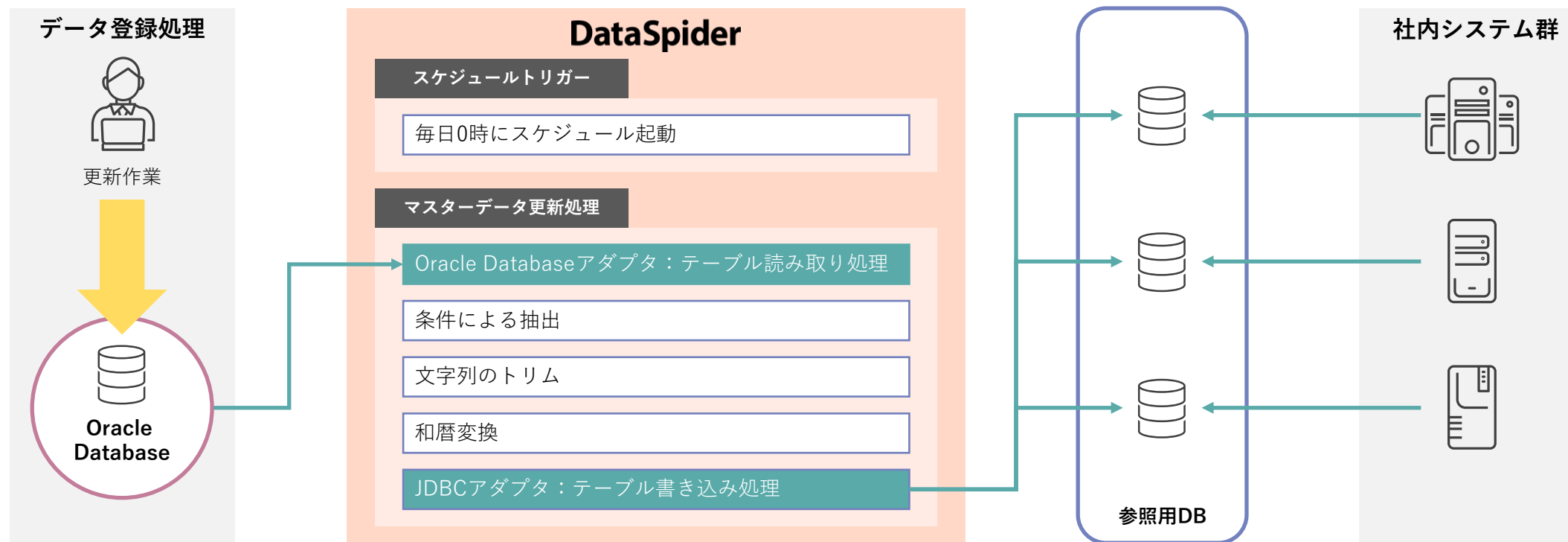


利用イメージ（解決）



Oracle Databaseアダプタを利用することで、既存運用を変えずにシステムごとに最適化された参照用データベースを容易に作成することが可能になりました。

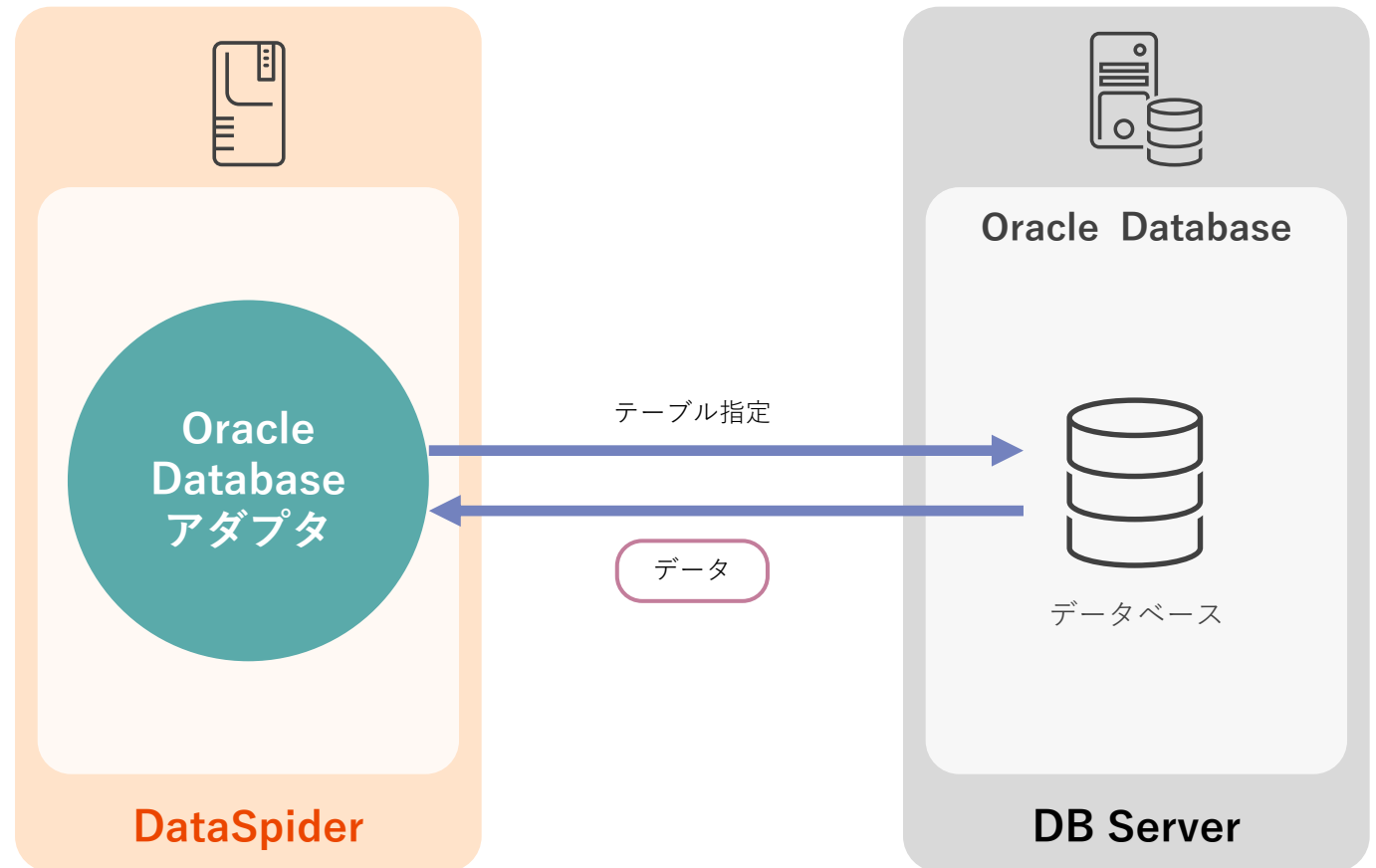
既存のOracle Databaseへの負荷を分散でき、全体のパフォーマンスが向上します。



種別	名称	概要説明
処理	テーブル読み取り	テーブルに格納されているデータを読み取ります。
	検索系SQL実行	SQL文を用いてデータを読み取ります。
	テーブル書き込み	入力データをテーブルに書き込みます。
	更新系SQL実行	SQL文を用いてデータを書き込みます。
	ストアドプロシージャ実行	ストアドプロシージャを実行します。
	ローダによる書き込み	ローダを用いてファイルの内容をテーブルに書き込みます。 データベースのクライアントのSQLローダを使用するため、高速に処理を行うことができます。

テーブル読み取り処理

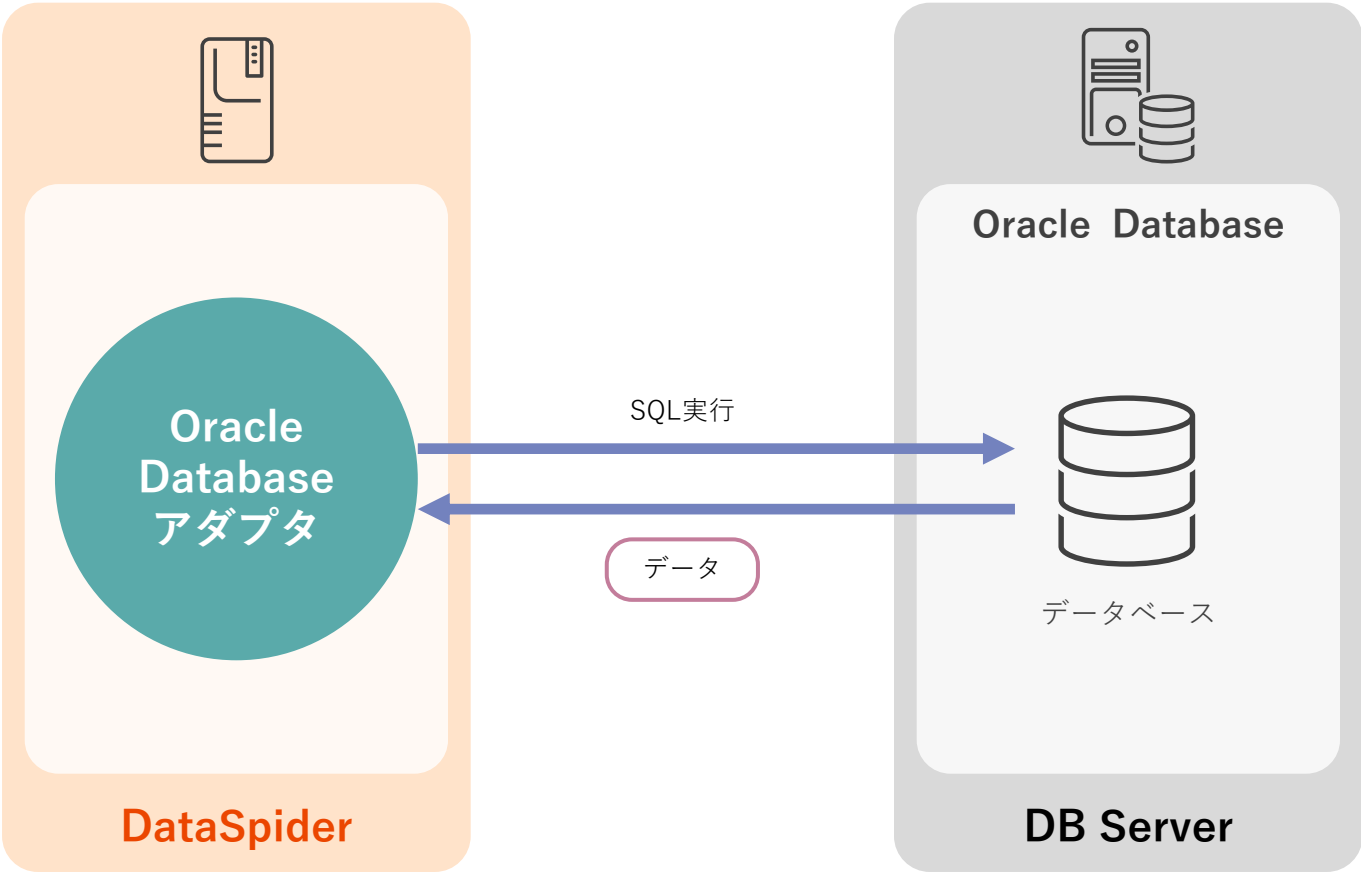
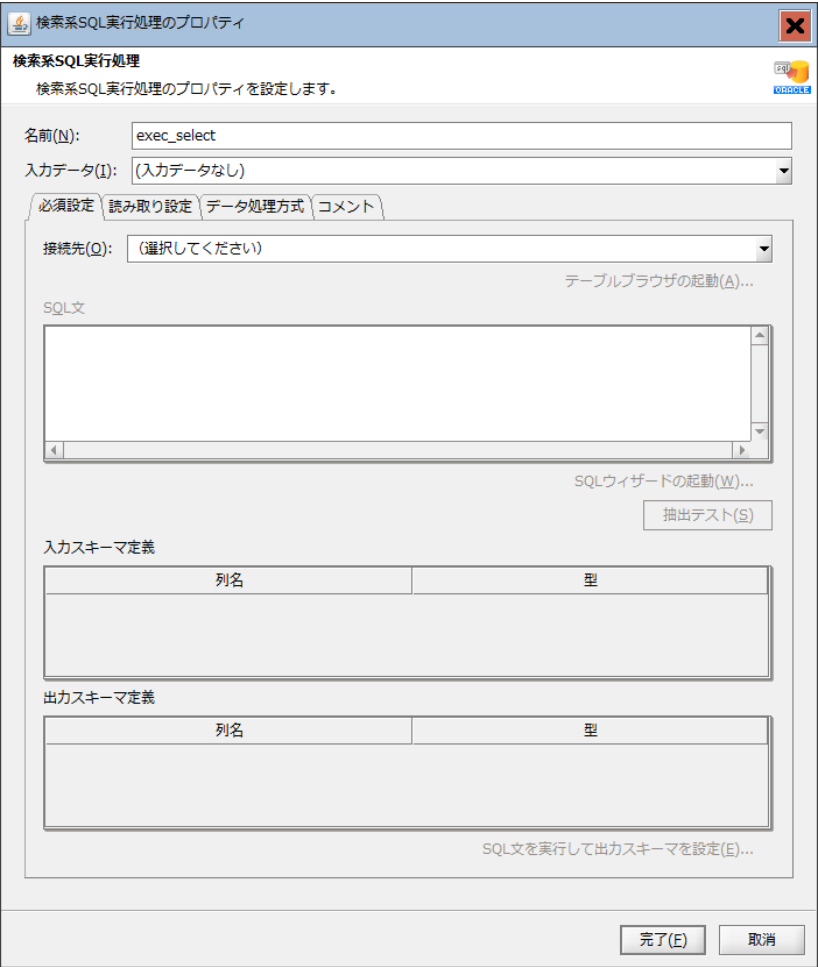
テーブルに格納されているデータを読み取ります。



- グローバルリソースの一覧設定で、テーブル一覧の表示数を制限していない場合や大きな数を指定している場合、データベースのテーブル数によってはプロパティ設定ダイアログを開くのに時間がかかることがあります。

検索系SQL実行処理

SQL文を用いてデータを読み取ります。



テーブル書き込み処理

入力データをテーブルに書き込みます。

テーブル書き込み処理のプロパティ

テーブル書き込み処理
テーブル書き込み処理のプロパティを設定します。

名前(N): put_table_data

入力データ(I): (入力データなし)

必須設定 書き込み設定 コメント

接続先(Q): (選択してください)

テーブルブラウザの起動(A)...

テーブル名(I):

☐ テーブル名を引用符で囲う(E)

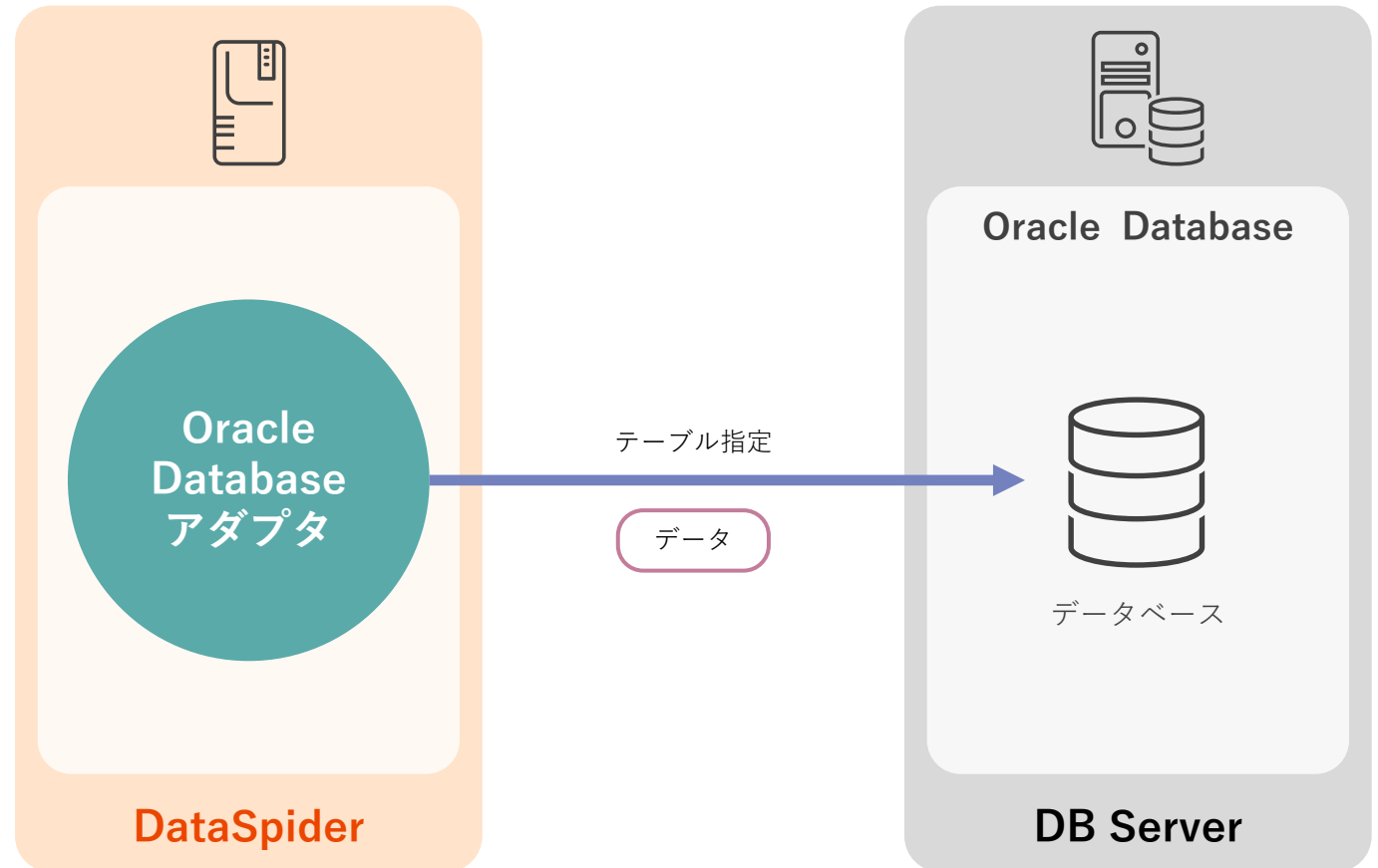
☐ キーの値と一致する行は更新(S)

スキーマ定義

☒ 書き込み対象	キー	列名	型

スキーマ定義の更新(U)...

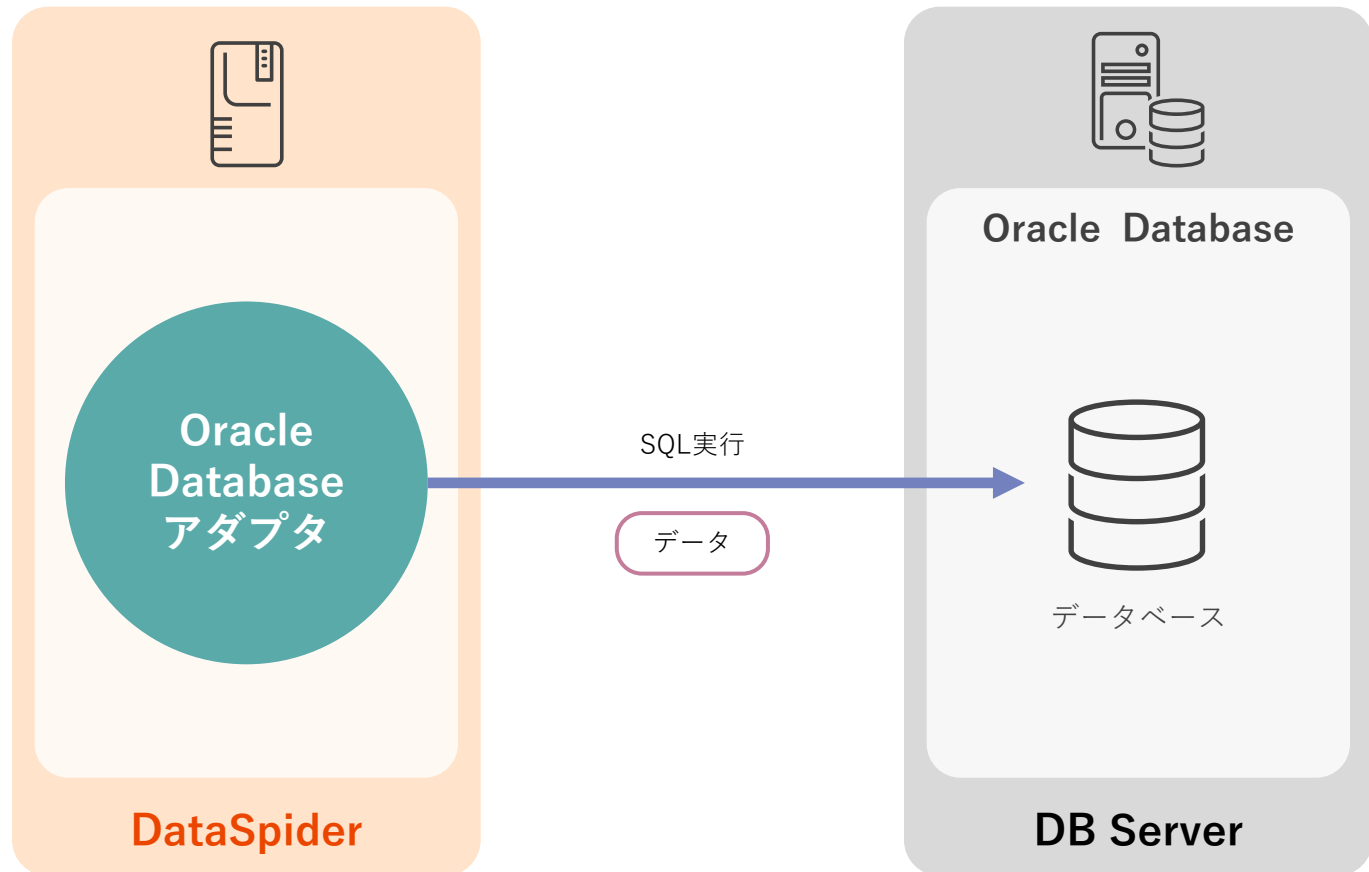
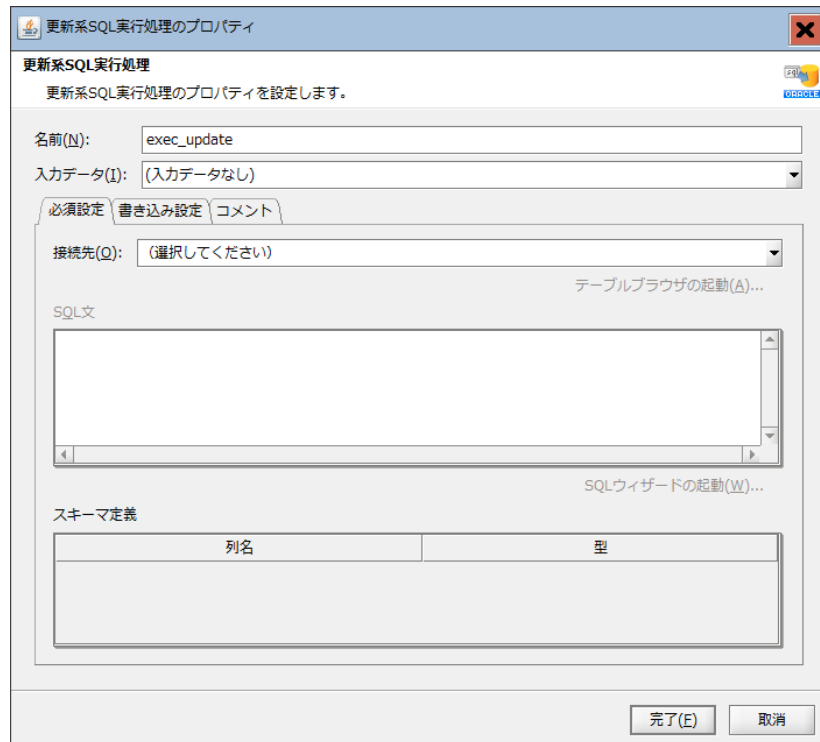
完了(E) 取消



- グローバルリソースの一覧設定で、テーブル一覧の表示数を制限していない場合や大きな数を指定している場合、データベースのテーブル数によってはプロパティ設定ダイアログを開くのに時間がかかることがあります。

更新系SQL実行処理

SQL文を用いてデータを書き込みます。
※使用可能なSQLは更新対象のデータベースに依存します。



ストアドプロシージャ実行処理

ストアドプロシージャを実行します。

※指定したストアドプロシージャの入力パラメータが入カスキーマになり、出力パラメータが出力スキーマとなります。

ストアドプロシージャ実行処理のプロパティ

ストアドプロシージャ実行処理
ストアドプロシージャ実行処理のプロパティを設定します。

名前(N): exec_procedure

入力データ(I): (入力データなし)

必須設定 実行設定 データ処理方式 コメント

接続先(Q): (選択してください)

テーブルブラウザの起動(A)...

プロシージャ(P):

入力

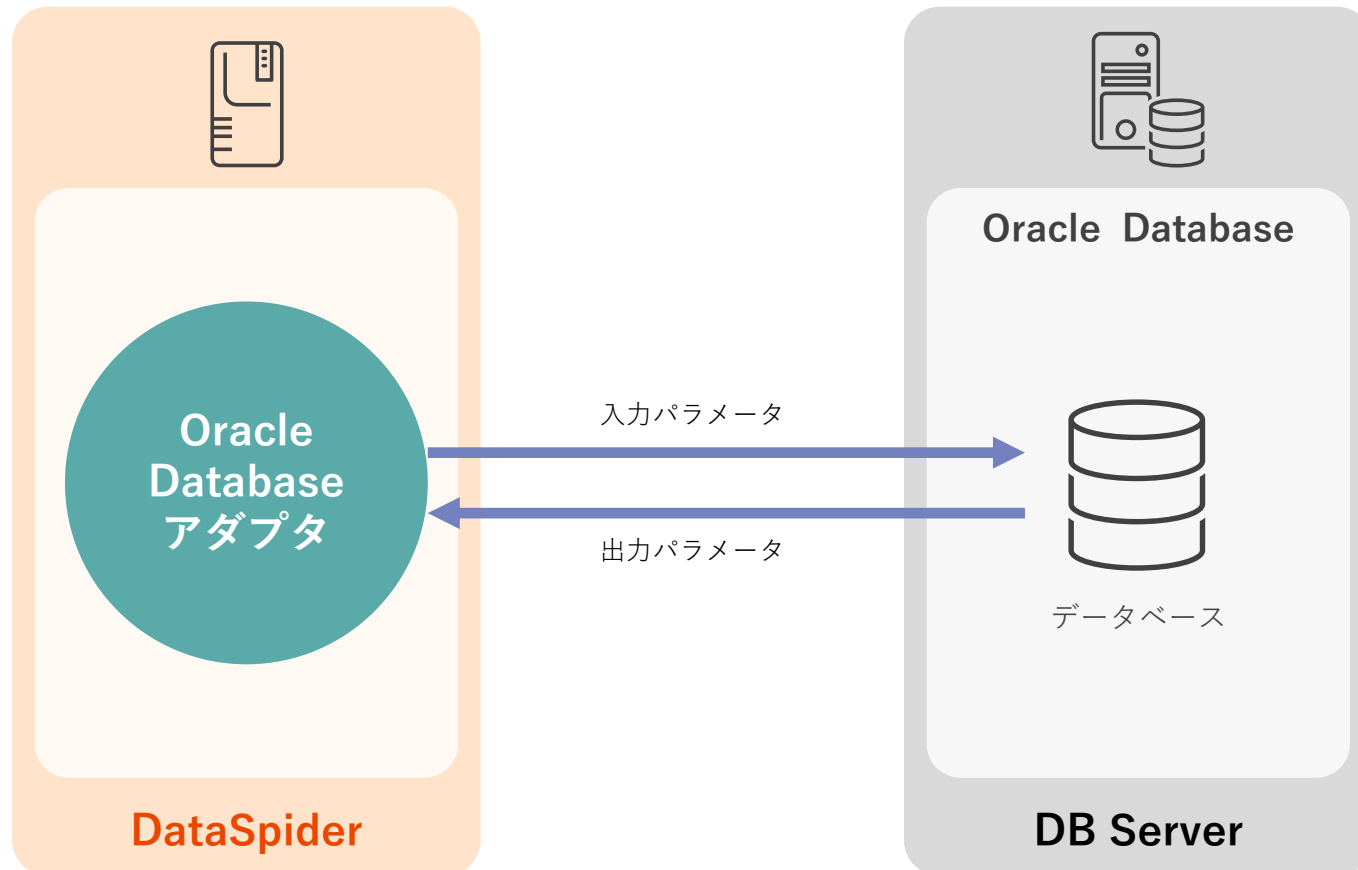
パラメータ名	型
--------	---

出力

パラメータ名	型
--------	---

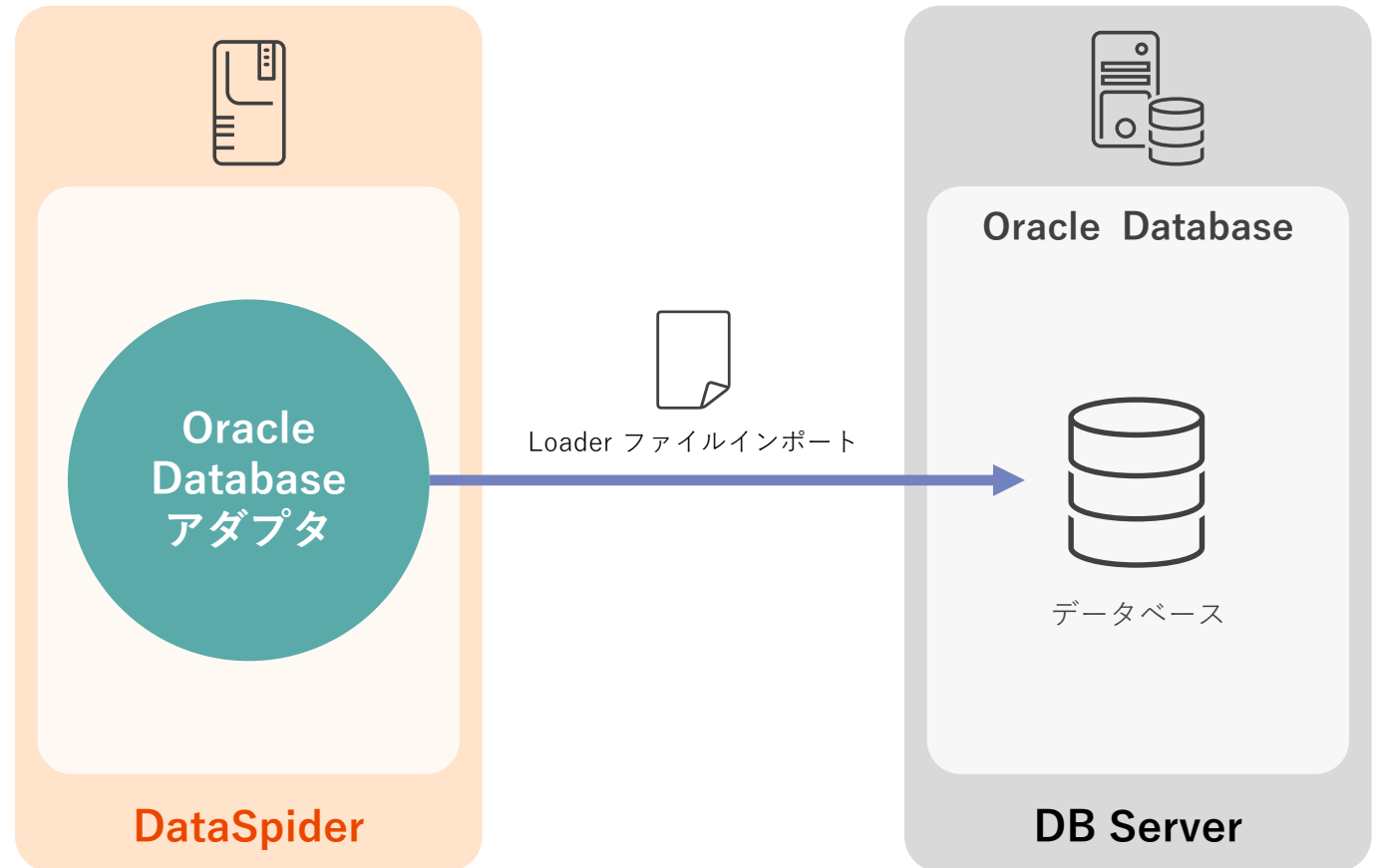
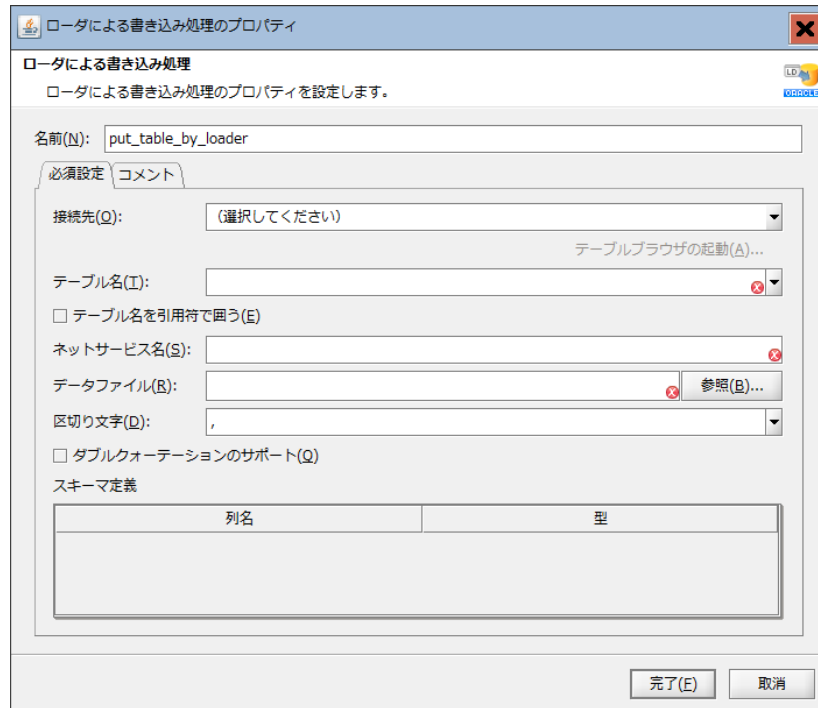
パラメータの更新(U)...

完了(E) 取消



ローダによる書き込み処理

ローダを用いてファイルの内容をテーブルに書き込みます。
データベースのクライアントのSQLローダを使用するため、高速に処理を行うことができます。



データベースアダプタ共通機能

データベースアダプタ各種には以下の共通機能が含まれます

- テーブルブラウザ
- SQLウィザード(検索系)
- SQLウィザード(更新系)

詳細につきましては下記をご参照ください。



アダプタ 紹介資料 JDBC
- データベースアダプタ共通機能



<免責条項>

本資料の内容は、資料作成時点の当社の判断に基づいて作成されているものであり、今後予告なしに変更されることがあります。よって本資料使用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

また、本資料の無断での複製、転送等を行わないようお願いいたします。

なお、本資料に記載されている会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。